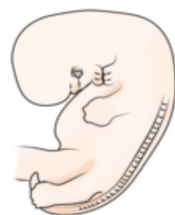




“源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/> 令和8年8月①
住職 恩田仁志 gen-chouanji@aka2.gmob.jp



◆回答不可能の難題

今月の塔婆裏文は「父母未生本来面目」。「ぶもみしょうほんらいのめんもく」と読みます。

夏目漱石の小説『門』の一節に、主人公の宗助が禅寺の住職に投げかけられたこの言葉に苦悩する姿が描かれています。

“両親によってこの世に生み出される以前のあなたの本質はなにか”を問う禅語です。常識的な論理や知識では、この問いに答えることは不可能といわれ、禅の修行において最も根源的な課題の一つといわれます。

ちなみに道元禅師はこの課題に対し、「春は花夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて 冷しかりけり」と歌を詠み、松尾芭蕉は同様の質問に対し「古池や蛙飛びこむ 水の音」と返したとか。

父母が出逢う以前の自分なんて「？」ですので、浅学の身としては深入りは避けます。言葉で考えるのが間違っていますが、何か私自身が考えるきっかけにならないかと二つのことを思い出しました。

以下は元特別支援学校の先生であった山元加津子さんが心訳された般若心経の一節です。

(前略)

私とあなた あなたとお花 お花と石ころ
みんな同じ
同じものでできている

(後略)

私たちの命は宇宙の生命活動と一体であるところから世界が存在。般若心経の“空”の境地に近づけるかもしれません。

蛇足ながらもう一つ。

父母未生本来面目

ヒトの受精卵は、約40日かけて胎児らしい形になります。最初の頃は尻尾のようなものもついていて、32日目あたりではまだ魚の顔でエラのようなものもあり、その後鼻が口にぬける両生類の姿に、さらに原始爬虫類の顔になるそうです。40億年近くかけて行った生物の進化を40日足らずで駆け抜けていきます。私たちの脳の奥底に40億年の記憶があると言えます。

まもなくお盆。父母、またご先祖を偲ぶとともに、有縁無縁の三界万霊を供養する大切な行事です。否、無縁などということは無いのかもしれませんが。

◆亡き人の縁に呼ばれる

続いた二つの法事で、いずれも県外あちこちの方がお集まりでした。神奈川、長野、大阪、兵庫、岡山、広島、愛媛、もちろん県内の他市町からも。「数年前の年回法事の時は、コロナのため来県できなかったのが久しぶりだねー」との声を聞きました。

山陰中央新報で小学生がレポートした記事が掲載されていました。記事の見出しに書かれているように、亡き人の縁で親戚が久しぶりに集まるどころにご一緒できました。



週刊
さんいん
学
園